News Letter

Institute of Social Safety Science

## 地域安全学会ニューズレター　No.47
## －目次－


1. 2004 年度査読論文の募集と投稿方法　1
   募集の会告
   査読論文投稿規程
   地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例

2. 調査・企画委員会の 2003 年度活動報告と 2004 年度活動計画　7

3. 2004 年度総会・春の一般論文発表会・公開シンポジウム等開催のお知らせ　9

別添資料：地域安全学会査読論文送付票


OCIAL
AFETY
CIENCE

# 地域安全学会ニューズレター
# ISSS News Letter


**No. 47**
**2004. 4**

# １．2004 年度査読論文の募集と投稿方法

平成 16 年 3 月
地域安全学会　学術委員会

平成 16 年度の「論文査読システム」は，**下記に示す通り**例年とほぼ同様の方法で実施いたします．会員各位の積極的な査読論文の投稿をお願いします．

## １．日程等

**(1) 査読用コピー原稿の投稿期限**
平成 16 年 5 月 21 日(金)　必着

**(2) 論文送付通知 E-メールの提出期限**
平成 16 年 5 月 21 日(金)

**(3) 第一次査読結果の通知**
平成 16 年 8 月

**(4) 印刷用オリジナル原稿の提出期限**
平成 16 年 9 月 3 日(金)　必着

**(5) 「地域安全学会論文集　№ 6」への登載可否の通知**
平成 16 年 9 月末

**(6) 地域安全学会研究発表会での登載可の論文の発表(論文賞･論文奨励賞の審査を兼ねる)**
月日：平成 16 年 11 月 5 日(金)～7 日(日)
場所：静岡県地震防災センター

**(7) 論文賞・論文奨励賞授与式（平成 17 年総会に予定）**

## ２．査読料の納入

**(1) 査読料**　１万円／編

**(2) 査読料の納入方法**
①期　限：平成 16 年 5 月 21 日(金)までに，②宛てに振り込んで下さい。
②振込先：　みずほ銀行 浅草支店
口 座 名：地域安全学会 論文口座
口座種別：普通口座
口座番号：１５４０７３６
振込者名：筆頭著者
③その他：振込通知書のコピーを投稿する査読論文に同封して下さい。

## ３．登載料の納入

**(1)登載料**（論文集１冊，別刷り 50 部を含む）
カラーを用いない場合、
６ページまでは、２万円／編，１０頁を限度とする偶数頁の増頁については、５千円／２頁。
カラーを用いる場合、
事前に委員会までお問い合わせ下さい。約 5 万円／頁の追加となります。

**(2) 登載料の納入方法**
平成 16 年 10 月 8 日(金)までに、上記２.(2)-②の振込先に振込んで下さい。

## ４．その他

**(1) 査読論文等の投稿先（すべて郵送もしくは宅配のみ）**
〒153-8505　目黒区駒場 4-6-1 東京大学生産技術研究所　都市基盤安全工学国際研究センター
地域安全学会 学術委員長　　目黒　公郎　宛て

**(2) 論文送付通知 E-メール送信先**
例年，査読用コピー原稿をお送りいただく際(締め切り 5 月 21 日)に、論文送付通知 E-メールを別途送信していただくことになっています。これは学術委員会での査読手続きを円滑に進めるためのものであり、<u>今年度からは和文概要（250 文字程度）も送付していただくことになりました</u>ので，お忘れのないようにお願いします。
宛先、送信期限、書式は以下の通りです。E-メールが利用できない方は論文送付票にその旨を書き加えてください。<u>なお，論文原稿は E-メールでは絶対に受け付けません。</u>
宛　　先：anzen@prelude.iis.ac.jp
送信期限：平成 16 年 5 月 21 日（金）

書　　式：１行目　「地域安全学会査読論文送付通知」と入力してください。
２行目　論文題目（和文）
３行目　論文題目（英文、半角文字で）
４行目　筆頭著者氏名（和文）
５行目　筆頭著者氏名（英文、半角文字で）
６行目　筆頭著者所属（和文）
７行目　筆頭著者所属（英文、半角文字で）
８行目　筆頭著者連絡先住所（郵便番号も）
９行目　筆頭著者 E-メールアドレス（半角文字で）
10 行目　筆頭著者電話番号（半角文字で）
11 行目　筆頭著者ファックス番号（半角文字で）
連名著者が１名いる場合は、
12 行目　連名著者氏名（和文）
13 行目　連名著者氏名（英文、半角文字で）
14 行目　連名著者所属（和文）
15 行目　連名著者所属（英文、半角文字で）
連名著者が２名以上いる場合は、
16 行目以降に続けて氏名等を入力してください。
**最後に，改行後，和文概要（250 文字程度）を記載ください。**

### (3) 執筆要領テンプレートの入手方法

「論文集の執筆要領」は，本ニュースレターに示す通りですが、電子ファイル「論文集の執筆要領」テンプレートが、地域安全学会ホームページ（http://www.kt.rim.or.jp/~isss/）にありますので、是非ご利用下さい。**なお、審査の公正を高めるため、査読用原稿には、氏名、所属を記載しないこととしておりますので、ご注意下さい。**

平成16 年3 月

# 査読論文投稿規定

平成11 年4 月（制定）
平成12 年3 月（改定）
平成13 年3 月（改定）
平成14 年3 月（改定）
平成16 年3 月（改定）
**地域安全学会　学術委員会**

## １．論文の内容

査読論文の内容は、防災および地域安全に新たな貢献が期待できるもので、かつ結論の導出過程が適切であるものとする。なお、防災および地域安全に新たな貢献が期待できるものであれば、従来の学術論文の体裁にとらわれず、調査報告やコンピューターシステムの開発、訓練方法の提案・実施結果等も査読論文の対象とする。

## ２．投稿者

筆頭著者は、地域安全学会会員に限る。また、筆頭著者は、研究発表会において発表し、かつ、討議に参加しなければならない。査読終了後の修正論文における著者の変更や追加は、原則として認めない。

## ３．投稿先

地域安全学会学術委員会学術委員長

## ４．投稿期限

随時。ただし、当面、「地域安全学会論文集」は「地域安全学会梗概集」と同時期に、年１ 回刊行する予定であり、各年度の「地域安全学会論文集」への登載期限は、別途、会告する。

## ５．査読手続き

**5-1 査読実施機関**：投稿された査読論文に対し、地域安全学会学術委員会（以下、委員会という）は２ 名の査読者による査読を行なって、「地域安全学会論文集」への登載の可否を決定する。

**5-2 投稿者への問い合せ**：査読にあたって、委員会は筆頭著者に対して問い合せ、または内容の修正を求めることができる。

**5-3 査読の打ち切り**：投稿された査読原稿に対する問い合せ、または内容の修正を求めた期限以内に筆頭著者から回答がない場合には、委員会は査読を打ち切る。

## ６．投稿論文の作成および提出

**6-1 投稿原稿の内容**：投稿原稿は、原則として他の書籍・雑誌において未発表でかつ査読中ではないものとする。また、学術論文として内容が完結していることが必要であり、「同一テーマのもとで分散して投稿したもの」と判定された論文は受け付けない。

**6-2 執筆要領の準拠**：投稿または修正された査読原稿は、「論文集執筆要領」に準拠していなければならない。

**6-3 充分な推敲**：投稿または修正された査読原稿は、充分に推敲されたものでなければならない。

**6-4 言語**：投稿または修正された査読原稿は、和文または英文でなければならない。

**6-5 送付票の添付**：査読論文の投稿および修正論文の返送にあたっては、必要事項全てを記入した「地域安全学会査読論文送付票」を添付しなければならない。なお、当初の査読論文の投稿時には、論文送付通知E-メールを別途送らなければならない。

**6-6 提出原稿の種類**：原稿には、査読用コピー原稿と印刷用オリジナル原稿の２ 種類がある。査読用コピー原稿は、査読段階で用いるための原稿であり、図・表・写真は判読可能な鮮明なものでなければならない。また、審査の公正を高めるため、査読用コピー原稿には、氏名、所属を記載しない。
印刷用オリジナル原稿は、「地域安全学会論文集」への登載が決定した後に提出する原稿であり、氏名、所属が記載されたもので、オフセット印刷用の版下原稿でなければならない。

**6-7 部数**：当初の査読論文の投稿時、および委員会の修正要求に応じて修正した査読論文の提出部数は、以下の通りとする。当初の査読論文の投稿時には、「地域安全学会査読論文送付票」を2部，査読用コピー原稿(カラーを含む場合はカラーコピー)を４ 部。修正後または登載決定後は、郵送時に折り曲げられないよう配慮してある印刷用オリジナル原稿と「地域安全学会査読論文送付票」を各１部、および印刷用オリジナル原稿のコピー(カラーを含む場合はカラーコピー) ２ 部。

**6-8 ページ数**：図・表・写真を含め、最低６ ページ、最大10 ページの偶数ページとする。

**6-9 図・表・写真**：図・表・写真は、判読可能な鮮明なものでなければならない。

**6-10 カラーの使用**：文章および図・表・写真にカラーを用いる場合には、査読用コピー原稿を提出する際に、委員会に問い合わせること。また，上記6-7の指示に従うこと。

## ７．著作権

「地域安全学会論文集」に登載された論文の著作権は著者に属し、地域安全学会は、編集著作権を持つものとする。

## ８．論文別刷り

「地域安全学会論文集」に登載された論文別刷りは、１ 編あたり50 部を筆頭著者に送付する。なお、別刷りに要する費用は地域安全学会の負担とし、50 部以上の要求には応じない。

# 地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例

Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample
of the Journal of Social Safety Science

*(査読用原稿では、点線で囲まれた枠内は空欄とし、点線の枠も削除すること）*
地域 太郎[1]，安全 花子[2]

Taro CHIIKI[1] and Hanako ANZEN[2]

[1] 地域安全大学 情報工学科
Department of Information Technology, Chiiki Anzen University
[2] 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部
Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Journal of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

***Key Words :*** *three to six words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line, Times New Roman, italic, 9 point font*

## １．はじめに

この「地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例」は，参考文献[1)]を参考に，「地域安全学会論文集」の印刷用オリジナル原稿作成の指針を示したものです．

この電子ファイル(Word 2000)そのものは，地域安全学会論文集の完全版下原稿（和文）を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています．と同時に，版下原稿そのものの体裁 (A4) をとっているため，このファイルの中の文章をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば，所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます．

細部について詳細に記述してありますが，多分野にわたる地域安全学会会員の学問分野を考慮し，参考文献の書き方等については，それぞれの学問分野の慣例を尊重することを前提としています．学術委員会としては，「この『査読論文執筆要領』に沿っていない」という理由のみで，“ 登載不可 ” とはしない方針です．ただし，公平を期すために，1ページ当り3,000字程度という規定は守っていただきます．

## ２．用紙と基本構成

査読用原稿および印刷用オリジナル原稿は，A４判で提出して下さい．査読用原稿は，

・題目（和文および英文）
・アブストラクト（英文）
・キーワード（英文）
・本文（和文または英文）
・補注（必要な場合)
・参考文献

の順に作成して下さい．

審査の公正を高めるために査読者には著者名を伏せて査読原稿を送付しますので，上記の点線で囲まれた著者名（和文および英文）および所属名（和文および英文）の部分は必ず空欄として空けておいて下さい．

査読用原稿は，コピー４部を送付して下さい．査読の結果，修正をお願いすることがあります．

登載決定後は，上記の点線で囲まれた所定の部分に著者名（和文および英文）および所属名（和文および英文）を追記した印刷用オリジナル原稿とコピー２部を送付して下さい．なお，点線の枠は削除してください．

## ３. 論文送付票

送付原稿の１枚目には，

・題目(和文および英文)
・筆頭著者氏名（和文および英文），所属（和文および英文），および連絡先（郵便番号，住所，e-mai1 アドレス，電話番号，ファックス番号）
・連名著者全ての氏名・所属（和文および英文）
・原稿枚数，図・表・写真の枚数，カラー使用の有無

に全てを記入した「地域安全学会査読論文送付表」を添付して下さい．

## ４．レイアウト等

レイアウトは，本要領に従って下さい．ただし，使用するソフトウェアやプリンターの違いによって，文字の大きさや字体，レイアウトの寸法などに若干の差異が生じても構いません．しかし，1 ページ当りの字数に大幅な増減がある場合には，レイアウトの修正をお願いすることがあります．

### (1) マージン等

・ 上下：各 20mm，左右：各 20mm
（ただし、１ページ目のみ上：30mm）
・二段組み本文の段組間隔は 8mm

### (2) フォント等

フォントは、原則として，以下の通りとします．

・題目：和文はゴチック 14pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
・著者名：和文は明朝 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
・著者所属：和文は明朝 9pt,左揃え 30mm のマージン．
英文は Times New Roman 9pt，左揃え 30mm のマージン．
・アブストラクト：英文 Times New Roman 9pt，左揃え，左右各 30mm のマージン．
・キーワード：Times New Roman, italic, 9pt, 3－6 語，２行以内，左右各 30mm のマージン．
“***Key Words***” はボールドイタリック体．
・本文：明朝 9pt，行替えの場合は 1 字下げ．
－章の見出し：ゴチック 10pt，左寄せ
－節，項の見出し：ゴチック 9pt，左寄せ
－図, 表, 写真のキャプション：ゴチック 9pt，中央揃え
・補注，参考文献の指示：明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが，各学問分野の慣例に従っても構いません．
・補注(必要な場合)：“ 補注 ” はゴチック 10pt，左寄せ，補注自体は，明朝 8pt.
・参考文献：“ 参考文献 ” はゴチック 10pt，左寄せ．参考文献自体は，明朝 8pt.

### (3) 行数および字数

**a) アブストラクト**

7 行以内として下さい．

**b) 本文**

二段組みとし，一段当りの幅は 81mm, 1 行当り 25 字，行間隔は 4.0mm で，1 ページ当り 60 行を標準として下さい．したがって，文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります．

### (4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて，最低 6 ページ，最大 10 ページの偶数ページとして下さい．

参考文献リストのあとに１行空けて，事務局から通知された受付年月日を右詰めで書いて下さい．ただし，最初の投稿原稿を用意していただく時点では，ここに発送日にプラス３日した日付を記入してください．

## ５．文章および章，節，項

### (1) 文章の書き方

文章は口語体によって，とくにカタカナ書きや英文を必要とする部分以外は，漢字まじり平仮名書きとして下さい．私的な表現，広告・宣伝，特定の個人・組織を誹謗する表現は避けて下さい．

### (2) 章，節，項のタイトルの書き方

章, 節, 項の見出し記号と前後の行空け等は，以下の通りとして下さい．

・章：“**１．…… ９．**”，前 2 行空き，後ろ１行空き．
・節：“**(1) …… (9)** ”，前 1 行空き，後ろ行空き無し．
・項：“**a) …… z)**”，前後行空き無し

## ６．式，記号および単位系

### (1) 記号等の用い方

式や図に使う文字，記号，単位記号等はできる限り常識的な記号等を用い，必要に応じて記号等の一覧を付けて下さい．

### (2) 数式

数式は，式の展開や誘導部分を少なくしてできるだけ簡潔にまとめ，必要に応じて本文中で説明して下さい．また，数式には，式の番号を “ [1] …… [9] ” とし，右寄せで付けて下さい．

### (3) 単位系

単位は，原則として国際単位系：SI[(1)]を用いて下さい．

## ７．図，表，写真

### (1) 図，表，写真の体裁

図，表，写真は，原則として，モノクロームとして下さい．ただし，カラーを使用せざるを得ない場合には，規定の登載料の他にカラー印刷の実費を納めていただきます．

### (2) 図，表，写真中の文字，キャプション等

図，表，写真は，最後にまとめて配置するのではなく，関連のある文章の近くに配置して下さい．

図，表，写真中文字やキャプション等は，本文と同じ言語を用いて下さい．

図，表，写真には，それぞれ一連番号を付けて下さい．

表のキャプションは上に，図および写真のキャプションは下に付けて下さい．

### (3) 図，表，写真と文章との関係

図，表，写真をページの一番上または一番下に配置する場合以外，上下 1 行ずつ空けて下さい．図，表，写真は一段のみ，二段抜きのいずれでも構いませんが，図，表，写真の左右には本文を組み込まないで下さい．

図，表，写真は，本文と同じ方向で組み込むことを原

則とします．ただし，1 ページ全体を 1 つの図，表，写真とする場合は，本文の方向から 90°回転することができます．

**(4) 写真について**

査読用コピー原稿を提出する段階ではコピーで構いませんが，印刷用オリジナル原稿では印画紙（光沢紙）に焼き付けたものを所定の位置に貼り込んで下さい．

**(5) 図，表，写真の引用について**

図，表，写真を他の著作物から引用する場合には，出典を必ず明記し，著作権法に抵触しないよう，著者の責任において原著者等の了解を得て下さい。

## ８．補注について

本文中の脚注や注はできるだけ避け，本文中で説明するか補注として本文末尾において下さい．ただし，それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません．

補注とする場合は，順番に“ (1) …… (9) ”の番号を付け，明朝 9pt の上付きで示して下さい．

## ９．参考文献について

参考もしくは引用した文献は，順番に“ 1) …… 9) ”の番号を付け，本文中では明朝 9pt の上付きで引用して下さい．

末尾の“ 参考文献 ”の記述内容は，全ての著者，論文名，雑誌名または書名，巻号，ページ，発行所，発行年の順に記載して下さい．ただし，これらすべての記載があれば，それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません．著者が 3 名以上の場合に限り，第 1 著者のみを記載しあとを“ 他 ”または“ et al. ”としても構いません．

## 10．印刷用オリジナル原稿

「地域安全学会論文集」への登載を可とされた論文は，定められた期日までに，印刷用オリジナル原稿を提出していただきます．

印刷用オリジナル原稿とは，印刷・出版用の高度なタイプライターもしくはコンピューターシステムを用いて作成され，そのままオフセット印刷にかけられる完全な体裁に整えられた原稿を指します．

これらの条件に合っていない場合には，登載できない場合がありますのでご注意下さい．

## 11．版権と著者の責任

「地域安全学会論文集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し，原稿の内容については著者が責任を持つことになります．したがって，印刷後発見された誤植や内容の変更はできません．誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は，学術委員会の了承を得た上で，著者の責任において，文書で，当該論文が登載されている「地域安全学会論文集」所有者に周知して下さい．

## 12．その他

**(1) 受付年月日**

査読用原稿を学術委員長が受け取った日付を受付年月日とします．

**(2) 登載決定**

査読を経た印刷用オリジナル原稿が，本「査読論文執筆要領」に合致していると学術委員会が認めた時点で，登載決定を事務局より通知します．

**(3) 査読者等の公表**

個々の論文についての査読者名および査読内容は公表しません．

**(4) 英文論文への適用**

本文を英文とする論文の執筆要領は，本文が和文であることを前提として作成した本「査読論文執筆要領」に準拠して下さい．しかし，英文の場合は，和文のタイトル，著者名，所属は不要です．

本文のフォントは，Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい．

## 補 注

(1) 国際単位系

S1 は，1960 年の国際度量衡総会で採択され，メートル法の単位をもとに，現代の科学技術および一般の社会活動の諸分野で共通に使用できるよう編成された実用的な単位系で，以下のような長さ，質量，時間，電流，温度，物質量，光度の基本単位があります．

長さ：メートル(m)　熱力学温度：ケルビン(K)
質量：キログラム(kg)　物質量：モル(mo1)
時間：秒(s)　光度：カンデラ(cd)
電流：アンペア(A)

また，10 の整数乗倍の単位を作るために以下のような SI 接頭語が定められています．

| | | |
|---|---|---|
| $10^{24}$：ヨタ(Y) | $10^{3}$：キロ(k) | $10^{-9}$：ナノ(n) |
| $10^{21}$：ゼタ(Z) | $10^{2}$：ヘクト(h) | $10^{-12}$：ピコ(p) |
| $10^{18}$：エクサ(E) | $10^{1}$：デカ(da) | $10^{-15}$：フェムト(f) |
| $10^{15}$：ペタ(P) | $10^{-1}$：デシ(d) | $10^{-18}$：アト(a) |
| $10^{12}$：テラ(T) | $10^{-2}$：センチ(c) | $10^{-21}$：ゼブト(z) |
| $10^{9}$：ギガ(G) | $10^{-3}$：ミリ(m) | $10^{-24}$：ヨクト(y) |
| $10^{6}$：メガ(M) | $10^{-6}$：マイクロ(μ) | |

## 参考文献


1) 土木学会論文編集委員会：土木学会論文集投稿の手引, 論文集編集委員会関連資料, 土木学会, pp.8-22, 1998.

2) Kanamori, H., Hauksson, E., and Heaton, T.: Real-time seismology and earthquake hazard mitigation, Nature, Vol. 390, pp. 461-464, 1997.


(原稿受付　2004. M.DD)

# ２.調査・企画委員会 2003 年度活動報告と 2004 年度活動計画

## １．2003 年度の活動報告

### A:人と地域の防災戦略研究小委員会

主査・荏本孝久（神奈川大学)、幹事・伊村則子（日本女子大学）

本年度は、7 回の委員会活動を通して人と地域の防災能力を高める戦略的方策について、多くの観点からの調査・研究結果や話題を提供してもらい、その方策について意見を出し合って検討を進め、具体的な調査・研究テーマの集約を図ってきた。消防庁による自治体の防災力・危機管理能力の評価が進められるなかで、人と地域の防災力を総合的に評価するためには、地域の企業・ボランティア・自主防災組織の防災意識と自治体との連携の絆がバランス良く整合しているかが重要であるとの視点から､委員会活動として人口 20 万人以上の都市を対象として、上記 3 つの組織に防災意識と相互連携の取組みについてアンケートによる調査を実施した。現在、その結果のまとめを進めている。

### B:防災体系国際比較研究小委員会

主査・大西一嘉（神戸大学)、幹事・塩野計司（長岡工業高等専門学校）

学会の研究発表会や理事会などの､多くの委員が参集する機会を捉えて情報を交換しながら、比較の視座を定めるための調査研究に取り組み、他のプロジェクトでの活動の機会を利用しながら、トルコと中国を対象として、系統的な比較研究のための先行調査を行った。トルコを対象とした調査では、地震防災に関する制度の理解と、マルマラ地震（1999）での被災地支援に関する実態の把握（現地での追跡調査による）を課題とした。中国を対象とした調査では、地震防災における被害予測調査の実施過程と都市計画的なアプローチによる地震防災の展開に関する実態調査（現地での聞き取り調査と日本国内でのワークショップによる）を課題とした。

## ２．2004 年度前期の活動計画

研究発表会等での研究成果報告、公開研究会の開催等を通じて研究の推進、交流を図る。

### A:人と地域の防災戦略研究小委員会

これまでの委員会活動において蓄積されてきた広範な観点からの話題提供に対する討議の経過と具体的な調査活動として実施したアンケート調査による防災関連組織間の意識と相互の連携による地域の防災力評価について検討を進めるとともに、この調査結果の考察に基づいて、人と地域の防災戦略の要点について整理し、その要点を踏まえた具体的な方策を実行可能とする研究テーマをまとめて行く予定である。

### B:防災体系国際比較研究小委員会

2003 年度にトルコと中国を対象として行った先行調査の成果を分析し、系統的な国際比較の実施に向けて、その可能性と実施方法を検討する。

## ３．2004 年 10 月からの委員会枠組み再編成へ向けて

調査･企画委員会では小委員会に研究主題を掲げ、主題に関する広範な討議、調査等の実施、研究結果のとりまとめを、概ね 3 年を一区切りとして実施することを目標に活動している。現在の委員会は 2001 年 10 月に活動を開始したことから、2004 年度 10 月には次の期に移行することを予定し、研究テーマと主査・委員の新規募集について、準備を進めている。

次期からの小委員会は、学会員が新しい研究ニーズ・シーズと研究戦略を討議・計画する機会として積極的に活用し、活動を通じて科学研究費補助金等の外部資金への申請を目指していただきたい。そのため、学会の調査・企画委員会の予算運用について、より自由度の高い内規を整備中である。委員会の予算は年額 120 万円程度であり、今回の募集により 2〜3 件の採択を予定している。

今後の予定を概略、以下に示す。順次、委員会及び理事会での討議を経て、学会ニュースレターやホームページに情報を掲載していくので、関心をお持ちの会員各位には、是非応募して頂きたい。なお、現在の小委員会がこれまでの成果を踏まえて、発展的な新テーマを提案することも可能である。

問い合わせ先：　調査・企画委員長、村上ひとみ(山口大学)
e-mail: hitomim@yamaguchi-u.ac.jp
TEL/FAX: 0836-85-9537

## 今後の予定

| | |
|---|---|
| ・2004 年 5 月 | 総会にて小委員会研究テーマ募集要綱の説明、手順と応募書式をホームページ掲載 |
| ・2004 年 7 月 | ニュースレターに小委員会テーマ募集の案内（手順と応募書式）掲載【小委員会テーマ、主査氏名、所属、背景・目的、活動計画案、主な委員候補、これまでの経過、等】 |
| ・2004 年 8 月 | 応募〆切 |
| ・2004 年 9 月 | 調査・企画委員会で審査し、理事会にはかり決定。<br>ニュースレターやホームページにより、新規研究小委員会の発表と委員の公募 |
| ・2004 年 10 月以降 | 新小委員会の活動開始 |

（文責：村上ひとみ 委員長、大西一嘉 副委員長）

## ３.2004 年度総会・春の一般論文発表会・

## 公開シンポジウム等開催のお知らせ

前号（No.46）のニューズレターでもお知らせしましたように、2004 年 5 月 28 日（金）、29 日（土）の 2 日間にわたり、和歌山県田辺市において総会、春の一般論文発表会、公開シンポジウム等を開催します。

一般論文発表会のプログラムと論文概要は学会ホームページに近日中に掲載しますのでご覧下さい。総会等の詳しい内容は別紙の開催のお知らせをご参照下さい。今号のお知らせで、新たにエクスカーションの予定を追加しました。

なお、ご宿泊は懇親会が行われる「ガーデンホテルハナヨ」（電話 0739-26-0874）が便利かと思います（JR 紀伊田辺駅から徒歩約 20 分、タクシー5 分）。詳細はホームページ http://www.hanayo.co.jp/ をご覧の上、個人で申し込んで下さい。

総会への出欠を今回同封しました返信用葉書で必ずご回答下さい。多数の皆様のご出席をお待ちしております。

### ◆東南海・南海地震に備える◆

和歌山県田辺市で 2004 年度地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度から総会にあわせて、一般論文の発表会も行いますので積極的な投稿をお願いします。

■ 一般論文発表会および総会

場所：紀南文化会館・研修室（和歌山県田辺市新屋敷町 1 番地、電話 0739-25-3033）

ＨＰ：http://www.kinanbunkakaikan.jp/

○一般論文発表会

日時：2004 年 5 月 28 日（金）13：00～16：30（2 室において並行で行います）

○総会

日時：2004 年 5 月 28 日（金）16：45～17：30

■ 懇親会

場所：ガーデンホテル　ハナヨ（電話 0739-26-0874）（紀南文化会館からはバスで移動します）

ＨＰ：http://www.hanayo.co.jp/

日時：2004 年 5 月 28 日（金）18：30～20：30

■ エクスカーション（津波被災地などをバスで見学予定）

日時：2004 年 5 月 29 日（土）9：00～12：00

■ 公開シンポジウム

場所：紀南文化会館・小ホール

○第一部「昭和南海地震津波の体験」
日時：2004 年 5 月 29 日（土）13：00～14：00
コーディネーター：重川希志依（富士常葉大学）
出演者：昭和南海地震津波体験者（市民 3 名）
○第二部「東南海・南海地震に備える（仮）」
日時：2004 年 5 月 29 日（土）14：15～16：00
コーディネーター：牧　紀男（地震防災フロンティア研究センター）
出演者：越村俊一（人と防災未来センター）：「海からの脅威」
（予定）能島暢呂（岐阜大学）：「揺れによる脅威」
　　柄谷友香（京都大学）：「社会的な脅威」

■　参加費

| | | 参加費 | 梗概集 |
|---|---|---|---|
| 会員 | | 3,000 円<br>（講演梗概集 1 冊を含む） | 参加者は 1 冊進呈<br>（追加購入は 3,000 円／冊） |
| | 一般論文発表者<br>（筆頭著者のみ） | 無料 | 1 冊進呈<br>（追加購入は 3,000 円／冊） |
| 会員外 | | 5,000 円<br>（講演梗概集 1 冊を含む） | 参加者は 1 冊進呈<br>（追加購入は 3,000 円／冊） |
| | 和歌山県民の方 | 無料<br>（講演梗概集は別途購入） | 3,000 円／冊 |

■　紀南文化会館とガーデンホテルハナヨの場所

地域安全学会ニューズレター
第 47 号　2004 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局
〒135-0052　東京都江東区潮見 2-10-24　カテナビル 5 階　株式会社システムソフト内
Tel : 03-3615-3026　　Fax : 03-3615-4639
E-mail : isss@kt.rim.or.jp
HP : http://www.kt.rim.or.jp/~isss/

次のニューズレター発行までの最新情報は，学会ホームページ（http://www.kt.rim.or.jp/~isss/)をご覧ください.

# 地域安全学会査読論文送付票

| | | |
|---|---|---|
| 題目 | | 和文： |
| | | 英文： |
| 筆頭著者 | 氏名 | 和文： |
| | | 英文： |
| | 所属 | 和文： |
| | | 英文： |
| | 連絡先 | 〒：□□□－□□□□ |
| | | e-mail アドレス： |
| | | 電話番号： |
| | | ファックス番号： |
| 連名著者① | 氏名・所属 | 和文： |
| | | 英文： |
| 連名著者② | 氏名・所属 | 和文： |
| | | 英文： |
| 連名著者③ | 氏名・所属 | 和文： |
| | | 英文： |
| 連名著者④ | 氏名・所属 | 和文： |
| | | 英文： |
| 原稿枚数 | | ＿＿＿＿＿ページ ／ 図・表・写真＿＿＿＿＿枚 ／ カラー使用：有・無 |

**注：（1）筆頭著者は、上記枠内のみ、すべて記入して下さい。**
**（2）連名著者が４名を超える場合には、必要事項を記入した別紙を添付して下さい。**

**以下は学術委員会で記入します．**

**原稿受付番号：No.＿＿＿＿＿ ／ 受付年月日：＿＿年＿＿月＿＿日 ／ 登載決定年月日：＿＿年＿＿月＿＿日**